

介護職員等によるたんの吸引等の試行事業 (特定の者対象)の概要と実施状況 (中間報告)

1. 試行事業の実施法人

特定非営利活動法人ALS/MNDサポートセンターさくら会概要

法人名	ALS/MNDサポートセンターさくら会（MND＝運動ニューロン疾患）
法人種別	特定非営利活動法人
創設	1993年5月（平成5年）
設立	2004年6月（平成16年）
主な加盟施設・事業者	重度訪問介護事業所
加盟数	【さくら会友の会】25事業所（平成21年6月30日現在） NPO法人さくら会に重度訪問介護従業者養成研修を委託している都内近県の事業所の集まり
組織変遷	平成5年5月 人工呼吸器を装着した在宅療養者に関する介護者の技術向上と、新たに在宅療養を始める人達への支援のため、介護人3名と設立。 平成16年6月 NPO法人格取得。
備考 （さくら会提出資料より）	<ul style="list-style-type: none">◆ 東京にあるたんの吸引を実施している重度訪問介護事業所（さくら会友の会）の職員に対する重度訪問介護従業者養成研修を主として実施。◆ 介護職員に対するたんの吸引を実施するための研修については、平成16年から実施しており（重度訪問介護従業者養成研修の制度化以降についてはその中で実施）、これまでに約1,000人の研修修了者を養成。◆ 東京都における在宅人工呼吸器装着者249人のうち97人が、さくら会友の会の事業所による重度訪問介護を利用。

< 重度訪問介護 >

障害者自立支援法に基づくサービスの1つであり、日常生活全般に常時の支援を要する重度の肢体不自由者に対して、比較的長時間にわたり、日常生活に生じる様々な介護の事態に対応するための見守り等の支援とともに、身体介護や家事援助を総合的かつ断続的に提供するサービス

【従事者要件】介護福祉士、介護職員基礎研修課程修了者、居宅介護（訪問介護）従業者養成研修修了者、
重度訪問介護従業者養成研修課程修了者

2. 試行事業の概要

試行事業(特定の者対象)

指導者講習

試行事業
実施事業者
説明

看護師

・基本研修の講師となる看護師及び実地研修の際、指導を行う看護師(指導看護師)に対し、本事業について個別に説明。

・「不特定多数」と「特定の者」の違い(基本研修で教える範囲、評価基準等)を中心に説明。

11月上旬

基本研修

- ・重度訪問介護従業者養成研修と合わせ20.5時間(重度訪問介護従業者養成研修修了済みの者は9時間程度)
- ・「在宅における特定の者」に特化したテキストを使用し、研修時には基本的内容に絞って講義を実施。
- ・講義部分の評価については、「在宅における特定の者」に特化した試験を実施。
- ・演習については、一連の流れが問題なくできるようになるまで繰り返し行う。

講義

演習

評価

評価

11月13~14日

実地研修 (特定の利用者の居宅で実施)

医師・指導看護師

医師・指導看護師と連携した熟練介護職員及び本人、家族が医療連携の下

指導

評価

介護職員(20人)

実地研修

評価

特定の利用者

- ・試行事業においては、たん吸引及び経管栄養の知識・技術を集中的に学習する。(通常はコミュニケーションや他の介護技術を先に習得。)
- ・実地研修については、指導看護師(必要に応じ指導看護師と連携した熟練介護職員)が指導を行い、指導看護師による評価により、問題ないと判断されるまで実施。
- ・指導看護師の指導は、初回及び状態変化時以外については「定期的」に実施。
- ・評価については、「在宅における特定の者」に特化した評価票を使用。
- ・評価を行う際には、利用者の意見を聴取することが可能な場合は、利用者の意見も踏まえた上で評価を実施。

11月下旬~1月下旬(予定)

ケアの試行 (特定の利用者の居宅で実施)

医師

指示

連携の
指導

介護職員

連携

看護職員

ケア
試行

特定の利用者

検討会に報告

※ 試行事業実施事業者は公募の結果、「NPO法人さくら会」に決定。

※ 外部有識者による評価。

3. 試行事業の実施状況

(1) 基本研修の実施概要

ア 基本研修

- 日 時：平成22年11月13日（土） 10:00～12:00
14日（日） 9:30～17:30

- 場 所：東京総合保健福祉センター江古田の森（中野区）

- 参加者：20名

- 基本研修の研修カリキュラム（重度訪問介護従業者養成研修の一環として実施）

※ 11/13の講義については、既に重度訪問介護従業者養成研修課程を修了している者については免除。
（11/14の講義については、経管栄養など新しい内容が盛り込まれていることから全員受講している。）

試行事業研修日程

日付	時間割	講義時間	科目名	内容	講師
11月13日	10:00 ~ 12:00	2	重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	・重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	大学講師 (教育福祉学科)
	13:00 ~ 14:00	1	基礎的な介護技術に関する知識		
	14:10 ~ 15:10	1	コミュニケーションの技術に関する知識①		
	15:20 ~ 16:20	1	コミュニケーションの技術に関する知識②		
11月14日	9:30 ~ 12:30	3	医療的ケアを必要とする重度訪問介護利用者の障害及び支援に関する講義①	・在宅における感染防止対策 ・経管栄養について ・在宅人工呼吸器生活者の生活実態のケア	大学教授 (看護学科)
			緊急時の対応及び危険防止に関する知識①		
	13:15 ~ 16:15	3	医療的ケアを必要とする重度訪問介護利用者の障害及び支援に関する講義②	・呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み ・気管切開と人工換気 ・人工呼吸器装着中の利用者のたん吸引	大学講師 (看護学科)
			緊急時の対応及び危険防止に関する知識②		
16:30 ~ 17:30	1	吸引・経管の栄養の演習等	吸引・経管の栄養の演習等	看護師	
17:40 ~ 18:10			テスト	テスト	
11月14日 ～ 11月13日	実習	3.5	基礎的な介護と重度の肢体不自由者とのコミュニケーション技術に関する実習		
2		外出時の介護技術に関する実習			
3		重度の肢体不自由者の介護サービス提供現場での実習			
合 計		20.5			

※ 太枠で囲っている部分が、介護職員による医行為の実施に関する研修（合計9時間）
※ 本日程については、さくら会のカリキュラム表から作成。

イ 実地研修

- 日 時：平22年11月下旬～
- 場 所：サービス利用者（障害者）の居宅
- 参加者：サービス利用者（障害者）：8名
介護職員：20名

さくら会試行事業(基本研修)実施風景 (平成22年11月14日)

講義風景



講義風景



演習風景



演習風景



(2) 基本研修の参加介護職員の属性 (参加総数 20名)

【性別】 男性5名 (25.0%)、女性15名 (75.0%)

【平均年齢】 31.9歳 (最年少18歳、最年長62歳)

【保有資格 (複数回答有)】

- ・ 介護福祉士 4名 (20.0%)
- ・ ヘルパー2級 7名 (35.0%)
- ・ 重度訪問介護従業者養成研修修了者 10名 (50.0%)
- ・ 資格無し 2名 (10.0%)

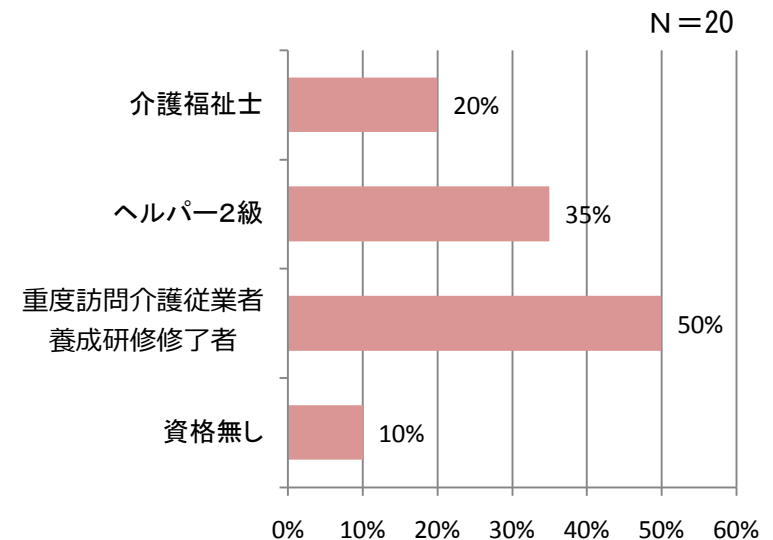
【所属事業所類型 (複数回答有)】

- ・ 居宅介護事業所 (障害) 1名 (5.0%)
- ・ 重度訪問介護事業所 (障害) 18名 (90.0%)
- ・ 訪問介護事業所 (高齢者) 3名 (15.0%)
- ・ その他: 1名 (5.0%)

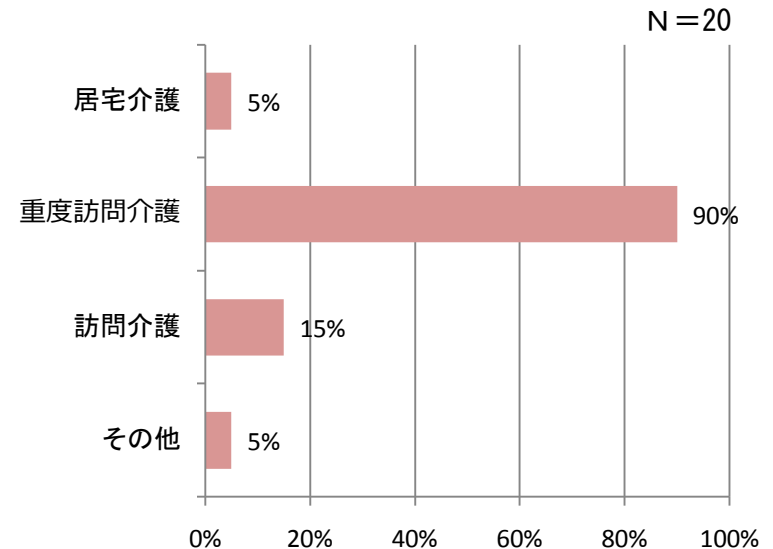
【介護職員としての経験年数 (平均)】

2.5年 (最長7年、最短0年)

保有資格の状況 (複数回答有)



所属事業所類型の状況 (複数回答有)



(3) 指導看護師の属性 (総数 19名)

【性別】 男性0名 (0%)、女性19名 (100%)

【平均年齢】 47.7歳 (最年少34歳、最年長65歳)

【保有資格 (複数回答有)】

- ・ 医師 0名 (0%)
- ・ 看護師 19名 (100%)
- ・ 保健師、助産師 1名 (5.3%)

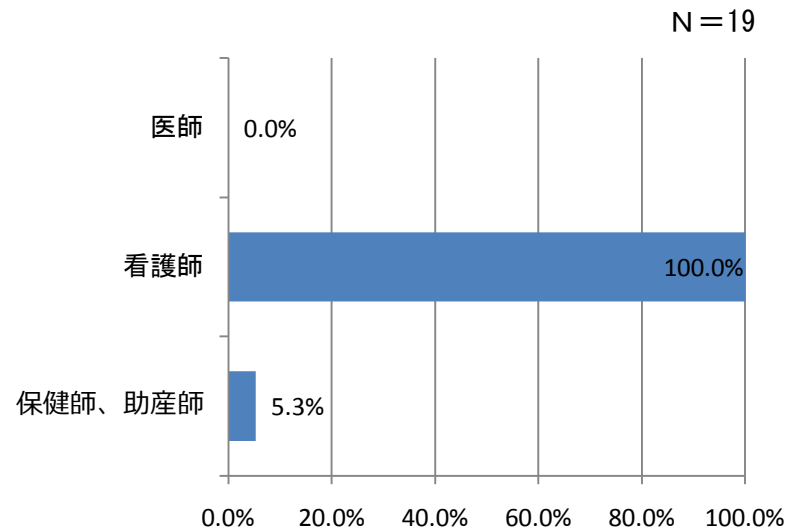
【所属事業所類型 (複数回答有)】

- ・ 病院、診療所 2名 (10.5%)
- ・ 訪問看護ステーション 16名 (84.2%)
- ・ その他： 1名 (5.3%)

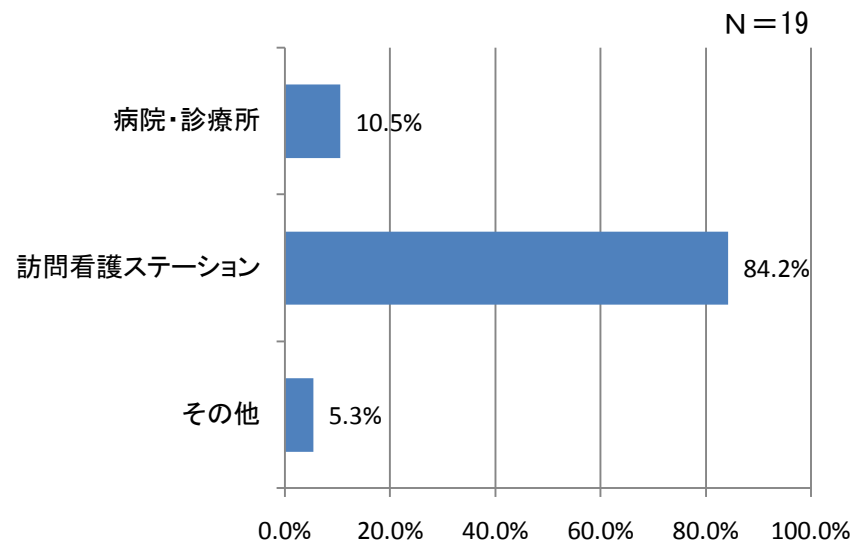
【経験年数 (平均)】

20.5年 (最長45年、最短10年)

保有資格の状況 (複数回答有)



所属事業所類型の状況 (複数回答有)



(4) 基本研修（講義）の実施状況

- 重度訪問介護従業者養成研修（20.5時間）のうちの一部（9時間）においてたんの吸引・経管栄養に係る研修を実施した。
- 終了後、研修受講者に対し、各講義について、講義内容や講義時間等について、指導者及び介護職員の両方にアンケートを行った。

ア. 基本研修アンケート結果概要

<指導者アンケート結果概要>

以下の講義内容について、各講義を行った講師（各1名）にアンケートを行った。

講義内容	
重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	① <u>受講者の理解度</u> ： 「在宅における感染防止対策」のみ「どちらとも言えない」その他は全て「理解できる」であった。
呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み	② <u>テキストのわかりやすさ</u> ： 全て「わかりやすい」であった。
気管切開と人工換気	
在宅における感染防止対策	③ <u>講義時間</u> ： 全て「適切」であった。
人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引	
経管栄養について	
在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア	④ <u>講義の必要性</u> ： 「呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み」が「必要」、「在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア」が「どちらかという と必要」の他は「必ず必要」であった。

<介護職員アンケート結果概要>

①講義内容について理解できたか：

「理解できた」が概ね9割、「まあまあ理解できた」も含めるとほぼ全員。

②テキストのわかりやすさ：

「わかりやすい」が9割以上、「まあまあわかりやすい」も含めるとほぼ全員

③講師の教え方のわかりやすさ：

「わかりやすい」が概ね9割、「まあまあわかりやすい」も含めるとほぼ全員

④講義時間：

「適切」が8割以上、「長い」が5%～20%

⑤全体としての満足度：

「大変満足」が概ね9割、「まあまあ満足」も含めるとほぼ全員

①理解度

講義	理解できた	まあまあ理解できた	あまり理解できなかった	全く理解できなかった	合計
重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	9 (90%)	1 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (100%)
呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
気管切開と人工換気	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
在宅における感染防止対策	20 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
経管栄養について	18 (90%)	2 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア	18 (90%)	1 (5%)	1 (5%)	0 (0%)	20 (100%)

②テキストのわかりやすさ

(単位：人)

講義	わかりやすい	まあまあわかりやすい	少しわからなかった	わかりにくい	合計
重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	10 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (100%)
呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み	20 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
気管切開と人工換気	20 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
在宅における感染防止対策	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引	20 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
経管栄養について	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア	19 (95%)	0 (0%)	1 (5%)	0 (0%)	20 (100%)

③講義時間

(単位：人)

講義	適切	長い	短い	合計
重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	8 (80%)	2 (20%)	0 (0%)	10 (100%)
呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	20 (100%)
気管切開と人工換気	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	20 (100%)
在宅における感染防止対策	20 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	20 (100%)
経管栄養について	20 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア	18 (90%)	1 (5%)	1 (5%)	20 (100%)

④講師の説明のわかりやすさ

(単位：人)

講義	わかりやすい	まあまあ わかりやすい	少しわからな かった	全くわからな かった	合計
重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	10 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (100%)
呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
気管切開と人工換気	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
在宅における感染防止対策	20 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引	20 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
経管栄養について	20 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア	18 (90%)	1 (5%)	1 (5%)	0 (0%)	20 (100%)

⑤基本研修全体としての満足度

(単位：人)

講義	大変満足	まあまあ 満足	普通	やや不満	不満	合計
重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	9 (90%)	1 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (100%)
呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み	18 (90%)	2 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
気管切開と人工換気	18 (90%)	2 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
在宅における感染防止対策	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引	20 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
経管栄養について	18 (90%)	2 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア	18 (90%)	1 (5%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)

(5) 基本研修（演習）の実施状況

- 基本研修（講義）修了後、シミュレーターを使用し、たんの吸引及び経管栄養について、それぞれ演習を実施した。
- 演習の評価に当たっては、たんの吸引・経管栄養の各行為を区分し、各回において、それぞれの区分について指導者（看護師）及び介護職員によりア～ウの3段階による評価を行った。

※ 評価に当たっては、以下の区分及び評価方法で行った。（評価票の例はP 1 2 参照。）

■ 手引きの手順における区分数

- ・ たんの吸引（口腔内・鼻腔内）：12区分
- ・ たんの吸引（気管カニューレ内部）：15区分
- ・ 経管栄養（胃ろう・経鼻）：11区分

■ 評価方法

- ア：手順通りに実施できている
- イ：細目レベルで、手順を抜かしたり間違えた
- ウ：手順を抜かした

(例) たんの吸引(口腔内)の評価票

<口腔内吸引について記入してください>

基本研修(演習)用
(指導者記入用)

達成度

① 留意事項に記載されている細目レベルで、抜かしたり間違えた。
② 手順について抜かしただけ

回数	回数		達成度記入欄				
	月日	時間	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
準備	手順	手洗いやアルコールスプレーを一曲を歌うまでの時間					
	準備	医師・訪問看護の指示を確認する。 利用者を本人に体調を聞く。	ここまでは、ケアの前に済ませておきます				
①	利用者を本人から吸引の依頼を受ける。あるいは、利用者のお思いを確認する。口の周囲、口腔内を観察する。	本人の同意はあるか。意思を尊重しているか。 声をかけているか。 必要性のある時だけ行っているか。過剰に吸引を行っているか。 別業的にたんの吸引できる体位か。 唾液、出血、腫れ、乾燥などのチェックしたか。 衛生的であるか。 感染予防の知識があるか。 必要時は手をアルコール消毒をしたか。					
②	吸引カテーテルを接続管につなげる。	衛生的に、器具の取扱いができているか。 カテーテルの先端をあらかじめ消毒しているか。					
③	吸引カテーテルを清潔にならないように取り出し、吸引器のスイッチを入れる。	消毒液を十分に洗い流したか。よく水を切ったか 吸引圧の確認をしているか。(毎回は必要ない)					
④	消毒液に浸かっている場合の吸引カテーテルは水を吸って外側を洗い流す。	本人に合図を送り、心の準備をしてもらえているか。 静かに挿入し、口腔内の分泌物を吸引できたか、あまり挿入していないか。					
⑤	「吸引しますよ～」と声をかける。	手順を間違えていないか。 唾液や水道水を汚していないか。 びんの連結を吸いすぎではないか。 カテーテルに分泌物が詰っていないか。					
⑥	吸引カテーテルを口腔内に入れる。	本人の意思を確認しているか。たんがどれくらいか。痛みをあたえず、吸引できたか。 吸引したたんの量・性状を見て、たんに異常はないか確認しているか。(異常があった場合、家族や看護師、医師に報告したか。感染の早期発見につながる。)					
⑦	使用済み吸引カテーテルは外側をアルコールで拭き取った後、水を吸って内側を洗い流す。(カテーテルをはずし所定の容器に戻す。)	吸引器の接続音は、吸引が終わったからできるだけ早く消した い。					
⑧	利用者に吸引が終わったことを告げ、たんがどれくらいを確認する。	手早く片づけているか。 吸引びんの汚物は適量捨てておく。					
⑨	吸引器のスイッチを切る。(吸引終了)	記録し、ヒヤリハットがあれば報告したか。(ヒヤリハットは業務の便に記載する。)					
⑩	後片付けを行う。						
⑪	唾液びんの液の残りが少なければ取り換える						
⑫	評価票に記載する。ヒヤリハットがあれば報告する。						

※ 手引きの手順を抜かしたり、間違えた内容を具体的に記述してください。

※ 利用者による意識レベル(評価を右に当てて利用者の意思の確認が常に必要点)

- ・ 右側まで吸い込んでいないか。
- ・ カテーテルを回したり、動かしながら吸引しているか。
- ・ 本人の指示に従っていないか。本人が了解していないか。
- ・ しつこく何度も吸引すぎではないか。

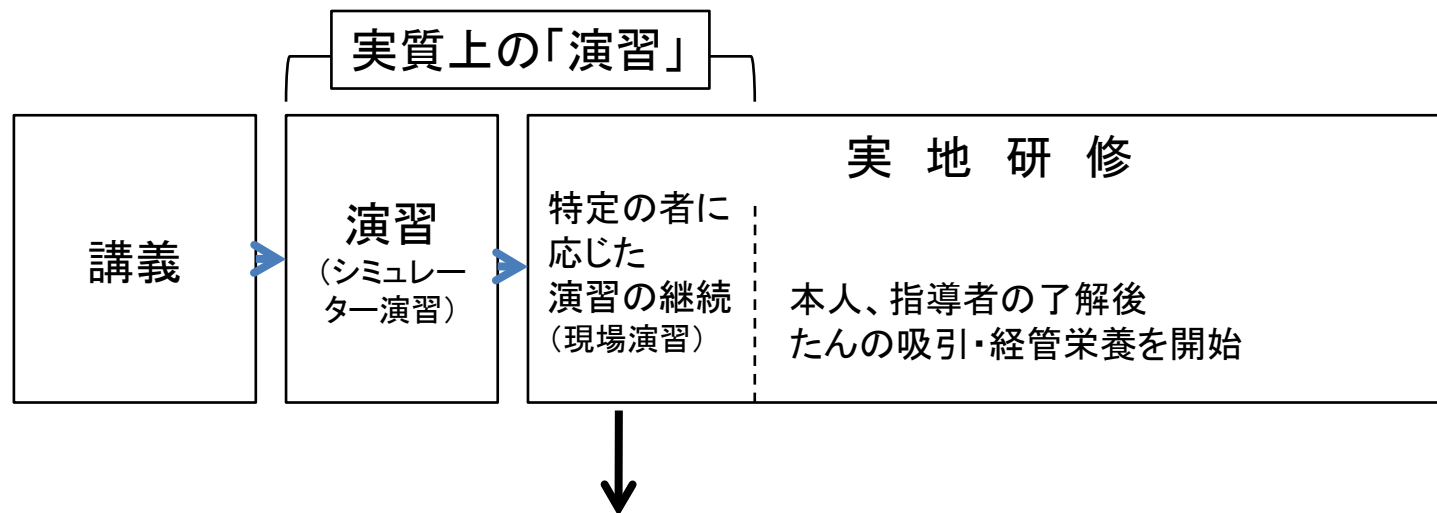
留意点

- ※ 特定の利用者における個別の留意点(良好な体位や酸素サンプ等)について、把握した上でケアを実施すること。
- ※ 留意点については別途「ケアチェックシート」に記載すること。

- 演習（シミュレーター演習）については、当該行為のイメージをつかむこと（手順の確認等）を目的に、演習の実施回数は、たんの吸引については、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部についてそれぞれ最低2回ずつ、経管栄養については、胃ろう（又は腸ろう）、経鼻についてそれぞれ最低1回ずつとした。

※ なお、すでに担当する利用者が決まっており、その方に必要ないケアの種類について演習を省略した参加者がいたため、後日追加演習を行うこととする。

- 特定の者対象の現地研修では、現地研修の序盤においては、実際に利用者の自宅において、看護師や熟練した介護職員が行うたんの吸引等を見ながら利用者ごとの手順に従って演習を継続（現場演習）し、利用者本人及び指導看護師の了解が取れた時点で、実際に利用者に対するたんの吸引等を実施する。



※ 各利用者宅には、本人の使用しているカニューレと同型のカニューレやペットボトルで製作した経管栄養シミュレーターが置いてあり、演習はその機器を利用して行う。

ア. 評価票結果概要（シミュレーター演習）

＜演習において全区分が「ア」となった回数の状況＞【指導者評価】

（単位：人）

		1回目	2回目	全部アになっていない者	合計
たんの吸引	口腔内	12 (60%)	6 (30%)	2 (10%)	20 (100%)
	鼻腔内	12 (60%)	2 (10%)	6 (30%)	20 (100%)
	気管カニューレ内部	7 (35%)	7 (35%)	6 (30%)	20 (100%)
経管栄養	胃ろう	17 (85%)	0 (0%)	3 (15%)	20 (100%)
	経鼻	15 (75%)	0 (0%)	3 (15%)	18 (100%)

※ シミュレーター演習の後も、利用者宅において現場演習を実施し、本人・家族・指導看護師の了解後、利用者へのたんの吸引・経管栄養を開始する。

(6) 基本研修（講義）内容の理解度の確認（テスト）

- 基本研修終了後、実地研修に進むに当たって、講義内容の理解度を確認するためのたんの吸引や経管栄養の実施に当たって必要となる基本的知識についてのテストを行った。
- 内容が基本的事項であることを踏まえ、合格ラインについては9割に設定することとした。

<試験方法>

- ・ 出題形式：客観式（四肢択一）
- ・ 出題数：20問
- ・ 試験時間：30分
- ・ 受験者：20名（基本研修受講者）

- 採点の結果、平均点は97点（最高点100点、最低点90点）となり、得点率が9割を下回る者はいなかったため、全員を合格とした。

<分野別の正答率>

分 野	正答率
・呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み	96.7%
・気管切開と人工換気	96.3%
・在宅における感染防止	100.0%
・人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引	95.0%
・経管栄養について	95.6%
・在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア	100.0%

- 設問ごとに正答率を見た場合、最高で100%、最低で75%となっており、設問ごとの正答率に差が生じた。

※ 正答率が低かったのは、たんの吸引が必要な状態に関する設問（正答率85%）、経管栄養が必要な状態に関する設問（正答率75%）となっていた。

(7) 実地研修の実施状況

ア. 実地研修参加者（利用者）の属性（総数8名）

【疾患】全員が筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者であり、人工呼吸器を使用している。

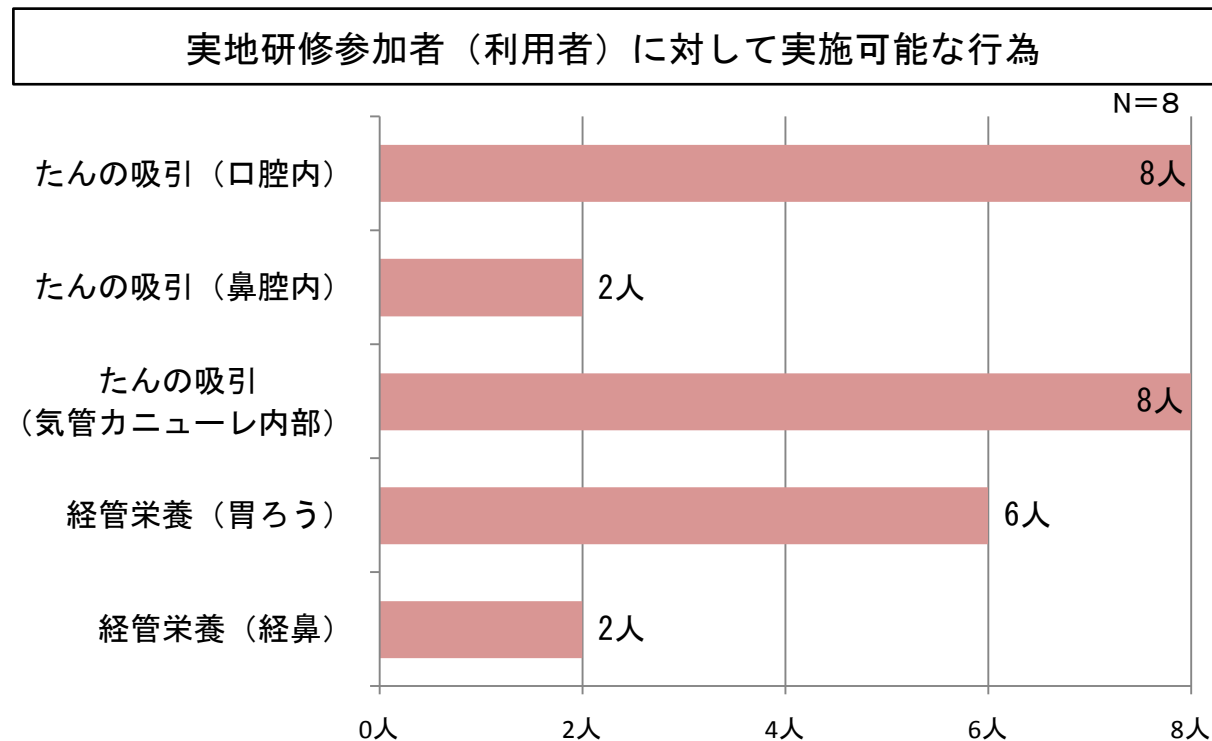
【性別】男5名（62.5%）、女3名（37.5%）

【平均年齢】60.8歳（最年少38歳、最年長70歳）

【要介護度】全員が「要介護度5」に該当

【障害程度区分】全員が「区分6」に該当

【障害高齢者の日常生活自立度】全員が「C」に該当



※ 腸ろうの者はいなかった。

イ. 実地研修の状況（現在進行中）（平成23年2月1日現在）

＜実地研修において全区分が「ア」となった回数の状況＞【指導者評価】

（単位：人）

		1～5回目	6～10回目	全部アになっていない者	合計
たんの吸引	口腔内	11 (91.7%)	1 (8.3%)	0 (0%)	12 (100%)
	鼻腔内	9 (90%)	0 (0%)	1 (10%)	10 (100%)
	気管カニューレ内部	10 (83.3%)	2 (16.7%)	0 (0%)	12 (100%)
経管栄養	胃ろう	5 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (100%)
	経鼻	5 (71.4%)	0 (0%)	2 (28.6%)	7 (100%)

※ 回数のカウントに当たっては、連続で2回全ての項目が「ア」となった場合の最初の回の回数をカウントしている。

※ 全ての項目が「ア」となっていない者については、実地研修を継続中である。